

【甘楽町】

校務 DX 計画

1. 校務 DX を推進する上での現状と課題

令和 6 年度「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果によれば本町の 4 小中学校の現状は、群馬県全体の平均と同等程度となっている。

校内での資料共有・情報共有のデジタル化は、汎用クラウドツール等の活用、校務支援システムの整備により町内 4 校で推進している。

学校と保護者間のデジタル化は、出欠報告やアンケート等の実施・集計を保護者のモバイル端末から受け付ける環境を構築した。学校から保護者へのお便りもファイル添付機能の配信システムを導入しているため引き続き活用を推進していく。

しかし、保護者との日程調整のクラウドサービスの利用、教職員すべてのメールアドレスの配布やデータ・写真の保管場所の統一化など今後検討が必要なことも多い。

また、押印の廃止は進められているが、FAX など紙ベースの業務は根強く残っている。

2. 校務 DX の課題解決、次世代の校務デジタル化

令和 7 年度より、県域共同調達で学校デジタル基盤（校務支援システムと汎用クラウドツール）の導入が検討されている。本町では令和 10 年度の参画に向けて検討を行う予定である。

県域のデジタル基盤に参画することで県域での活用事例や先進事例が共有され、それらを取り入れて教職員の多忙化解消に資するためのデジタル活用を進めたい。

また、学校内のペーパーレス化のみでなく、教育委員会と学校間についても関係各所と連携し推進していく。

4 校を担当する ICT 支援員により情報の共有を図りながら、教育委員会と各校の情報教育担当教員との定期的な打ち合わせの開催により、校務 DX の課題の解決に向けて取り組む。